

全国コウノトリサミット 共同宣言

～翼がつなぐ持続可能な農業～

日本の空から一度はいなくなってしまったコウノトリ。兵庫県豊岡市で人工飼育した5羽のコウノトリが野生に放鳥されてから、本年で20年の節目を迎えました。各地に渡ったコウノトリは今や500羽を大きく超えるまでに増え、繁殖地は関東から九州まで13府県に広がっています。

豊岡市でコウノトリの野生復帰を支えたのは農業でした。エサとなる生きものを増やすため、農薬の使用を抑え、冬も田んぼに水を張る「コウノトリ育む農法」。コウノトリが飛来した各地でも、コウノトリとの共生を目指し、環境に配慮した農業の取り組みが広がりました。

コウノトリもすすめる豊かな環境は、人間にとっても豊かな環境です。コウノトリは環境に配慮した農業や地域のシンボルとなり、そこに住む人々の誇りであって、地域づくりや農産物の高付加価値化にも貢献しています。

いま、気候変動が農業、そして食を通じて人々の暮らしに大きな影響を及ぼし、生物多様性の減少にも懸念が高まっています。農業者の減少や高齢化で、農業や農村の持続可能性も揺らいでいます。私たちが実践してきた、環境に配慮し、コウノトリと共生する農業は、こうした課題の解決策として、重要性がいっそう高まっています。

本サミットでは、放鳥20年の成果と、それを支えた全国の農業関係者の努力、地域との連帯を確認しました。これを踏まえ、私たちは、将来に向けて次の事項に取り組むことを宣言します。

- ・環境に配慮した農業を推進し、地球環境・農業経営・地域それぞれの持続可能性を高めることで、これからもコウノトリと共生できる環境づくりを目指します。
- ・コウノトリの飛来・繁殖地間で連携と交流をいっそう深め、ともに活動を進展させます。
- ・次世代を担う人材の育成や参画を促進し、持続可能な農業と地域社会の発展に努めます。

2025年11月22日
全国コウノトリサミット参加者一同